

“薬剤師レジデント制度”という言葉を目にしたことはあるでしょうか。レジデントとは研修医という意味であり、医師では公的な卒業初期研修の枠組みとして位置づけられています。薬剤師の世界でも、医師の制度を目標に独自のレジデント制度を導入する病院が増えており、現在全国に30施設ほどあります。今回は、神戸市立医療センター中央市民病院の薬剤師レジデント制度を修了し同院で働いている藤田拓俊さんと、同院で薬剤師レジデント2年目を迎えた今子千鶴さんに、日本薬学生連盟広報部の山沢智(日本薬科大学)、百瀬真梨(名城大学薬学部)が聞き手となって、レジデントに進んだ理由や魅力などをうかがいました。

薬剤師レジデントの魅力とは

日本薬学生連盟 オンライン座談会



薬剤師レジデント修了者の藤田さん(右下)と、2年目の今子さん(左上)に、山沢(左下)、百瀬(右上)がテレビ会議システムで話を聞いた

神戸市立医療センター中央市民病院
薬剤部 藤田 拓俊さん
薬剤師レジデント 今子 千鶴さん

—藤田さんが薬剤師レジデントを目指したきっかけや理由を教えてください。

藤田 幅広い知識や経験を身につけるために、ある程度規模が大きく、幅広い診療科がある病院に就職したいと思っていました。大規模病院では通常、最初の1~2年目は調剤室のセントラル業務が主で、3年目くらいから病棟に出て行く場合が多いと聞いていました。できれば早いうちから病棟等の様々な経験をしたいと考え、薬剤師レジデントであれば、明確な教育プログラムがあり、早いうちから経験を積めるとして選びました。

—薬剤師レジデント制度の存在を知ったのはいつ頃ですか。

藤田 私が卒業した神戸薬科大学には、神戸大学との薬剤師レジデントの連携プログラムがありました。いつ頃かは覚えていませんが、大学の先生から就職に関するお話があり、薬剤師レジデントについて考えるようになりました。

—今子さんが薬剤師レジデントを目指した理由を聞かせてください。

今子 私が初めて薬剤師レジデント

の存在を知ったのは、広島大学薬学部6年生で、就職活動を始めた時でした。実務実習を地元広島で受けた際に救急病棟に興味を持ち、救急に力を入れている病院を調べたところ、神戸市立医療センター中央市民病院が厚生労働省の発表している全国救命救急センター評価で7年連続で1位を取り続けていることを知り、さらに調べるうちに、薬剤師レジデント制度を知りました。

救急病棟や集中医療に興味はありましたが、高い能力が要求される救急分野において自分がきちんとやっていけるのかという不安がありました。当院のレジデント制度では、自分の興味がある分野の病棟を選択して業務を経験

できるほか、様々な部署や業務を幅広く経験できます。もし自分にその分野が向いていない場合に他の可能性を探すこともできると思って、薬剤師レジデントとして2年間過ごすことにしました。

—実際に早い段階から救急分野に関わることはできていますか。

今子 1年目はセントラル業務の割合が多く、広く浅くいろんな病棟をまわるといった感じです。2年目は1病棟あたり3カ月間の研修を3病棟選択して研修する予定になっていて、4月半ばくらいから救急病棟で研修しています。2年目から救急に関われる病院は、そう多くはないと思います。

レルギーやサプリメント、副作用歴などを確認します。

午後からは初回面談に加えて、以前指導した患者さんの様子を見に行ってお話を聞いたり、新しくお薬が処方された時には気になっていることがないかなどを確認したりします。病棟のカンファレンスに参加することもあります。

—2年目になると病棟業務が増えるとのことですが、病棟業務というのは1日中病棟に常駐しているのでしょうか。

藤田 病院によって異なりますが、そういうところもあるかと思います。当院でも薬剤師用スペースがある病棟もありますが、そうではない病棟の方が多く、薬剤部で準備してから病棟に上がって業務するというように、薬剤部と病棟を行ったり来たりすることが多いです。

—今子さんの現況を教えてください。

今子 私は今、救急病棟で研修を受けていますので、朝8時前にきて、患

病棟研修で患者と面談

研究発表にも取り組む

—薬剤師レジデントはどのような1日を過ごすのでしょうか。

藤田 調剤室や注射室での業務、あとは病棟研修があります。例えば、病棟研修の時は、朝8時には来て、初

回面談や薬の投与が始まる患者さんの説明のために、話す内容を考えたり下調べしたりといった準備をします。午前中は新しく入院する患者さんが多いので、その方の初回面談をします。ア

「考える力」「対応力」を身につけて、効率よい充実した実習にしよう!

改訂モデル・コアカリキュラム対応

薬学生のための臨床実習

一般社団法人日本病院薬剤師会 監修 一般社団法人日本病院薬剤師会薬学教育委員会 編集

■代表的8疾患の症例について薬物治療の考え方や進め方を対話形式で解説

カルテや患者情報から、学生と指導薬剤師のディスカッションを通して薬物療法を検討し、医師への処方提案、患者への服薬指導、学生カルテの記録までの流れがわかります。

- ◎ポイントごとに「何をどう考えていけばよいか」が掴める!
- ◎実際の医療現場をイメージしながら学べる!

詳細はコチラ▶



B5判/159頁/定価2,300円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。